

学校教育目標・学科教育目標・科目関連表(電子機械工学専攻・専攻区分 機械工学)

(令和3年度以降入学者)

学校教育目標	電子機械工学専攻(専攻区分: 機械工学)の学習・教育目標	専攻科課程(専攻科) 科目名	
		第1学年	第2学年
① <u>ものづくり能力</u> 社会の変化と要請を的確に捉え、ものづくりを多面的に認識し、実現可能なシステムを構築できる技術者の養成	社会の変化と要請を的確に捉え、機械工学分野の基礎的な知識を身につけ、ものづくりを多面的に認識し、最適なシステムを設計できる技術者となる。	☐ 都市地域解析論 ☐ インターンシップ ☐ 機能性材料学 ☐ 計測制御工学 ☐ コンピュータ工学 ☐ 特別研究 I	☐ 情報システム工学 ☐ 工業デザイン論 ☐ 技術史 ☐ 生産工学 ☐ 材料加工プロセス ☐ 材料強度学 ☐ 機械振動学 ☐ 燃焼工学 ☐ 流れ学 ☐ 機械設計工学 ☐ ロボット工学 ☐ 知識工学 ☐ 通信システム ☐ 応用電子デバイス ☐ 特別研究 II
② <u>基礎学力</u> 実験・実習で培われる豊かな体験と基礎理論の深い理解との融合から生まれるエンジニアリング基盤の確立	本科で身につけた数学、物理及び工学基礎と豊富な実験・実習で得られた学力をさらに向上させた上で、機械工学の諸分野における問題に対して適切な結果を得ることのできる実践的な技術者となる。	☐ 応用解析学 I ☐ 線形代数学 ☐ 生物化学 ☐ 原子物理学 ☐ 解析力学 ☐ 都市地域解析論 ☐ 電磁気学 ☐ 電子回路論 ☐ 工学数理解習 ☐ 電子機械工学特別実験	☐ 応用解析学 II ☐ 統計熱力学 ☐ 初等代数 ☐ 生体情報論 ☐ 信頼性工学 ☐ パターン情報処理
③ <u>問題解決能力</u> 問題意識と考える力を持ち、自ら学習することによる創造力と実践力を備えた技術者の養成	実験、研究の背景を自ら調査・整理し、技術的な問題点を明確にした上で目的と方法を設定し、計画的、継続的に課題解決できる深い教養と広い工学的知識を身につけた技術者となる。	☐ 都市地域解析論 ☐ インターンシップ ☐ 電子機械工学特別実験 ☐ 特別研究 I	☐ 特別研究 II
④ <u>コミュニケーション能力</u> 科学的な分析に基づく論理的な記述力、明解な口頭発表能力、十分な討議能力及び国際的に通用するコミュニケーション能力の修得	機械工学の諸分野における課題に対して得られた成果を、日本語による論理的な記述、口頭発表と討議、英語文献読解及び基本的な英会話ができる能力を有した技術者となる。	☐ 総合英語 I ☐ 技術英語 ☐ 日本の言葉と文化 ☐ 電気英語コミュニケーション I ☐ 電子機械工学特別実験 ☐ 特別研究 I	☐ 総合英語 II ☐ 上級英語表現 ☐ 電気英語コミュニケーション II ☐ 特別研究 II
⑤ <u>技術者倫理</u> 世界の文化・歴史の中で、技術が社会に与える影響を考え、自らの責任を自覚し誇りを持つことのできる技術者の育成	技術が社会に及ぼす影響を考え、社会における役割と責任を理解した技術者となる。	☐ 技術者倫理 ☐ 地域と産業 ☐ 歴史学 ☐ インターンシップ	☐ 健康科学特論 ☐ 工業デザイン論 ☐ 技術史

学校教育目標・学科教育目標・科目関連表(電子機械工学専攻・専攻区分 機械工学)

(平成30年度～令和2年度入学者)

学校教育目標	電子機械工学専攻(専攻区分: 機械工学)の学習・教育目標	専攻科課程(専攻科) 科目名	
		第1学年	第2学年
① ものづくり能力 社会の変化と要請を的確に捉え、ものづくりを多面的に認識し、実現可能なシステムを構築できる技術者の養成	社会の変化と要請を的確に捉え、機械工学分野の基礎的な知識を身につけ、ものづくりを多面的に認識し、最適なシステムを設計できる技術者となる。	☐ 都市地域解析論 ☐ インターンシップ ☐ 機能性材料学 ☐ 計測制御工学 ☐ 応用電子デバイス ☐ 特別研究Ⅰ	☐ 情報システム工学 ☐ 工業デザイン論 ☐ 技術史 ☐ 生産工学 ☐ 材料加工プロセス ☐ 材料強度学 ☐ 機械振動学 ☐ 燃焼工学 ☐ 流れ学 ☐ パワーエレクトロニクス論 ☐ 機械設計工学 ☐ ロボット工学 ☐ 知識工学 ☐ 通信システム ☐ 特別研究Ⅱ
② 基礎学力 実験・実習で培われる豊かな体験と基礎理論の深い理解との融合から生まれるエンジニアリング基盤の確立	本科で身につけた数学、物理及び工学基礎と豊富な実験・実習で得られた学力をさらに向上させた上で、機械工学の諸分野における問題に対して適切な結果を得ることのできる実践的な技術者となる。	☐ 応用解析学Ⅰ ☐ 線形代数学 ☐ 生物化学 ☐ 原子物理学 ☐ 解析力学 ☐ 都市地域解析論 ☐ 電磁気学 ☐ 電子回路論 ☐ 工学数理演習 ☐ 電子機械工学特別実験	☐ 応用解析学Ⅱ ☐ 統計熱力学 ☐ 初等代数 ☐ 生体情報論 ☐ 信頼性工学 ☐ パターン情報処理 ☐ 電子機械工学特別実験
③ 問題解決能力 問題意識と考える力を持ち、自ら学習することによる創造力と実践力を備えた技術者の養成	実験、研究の背景を自ら調査・整理し、技術的な問題点を明確にした上で目的と方法を設定し、計画的、継続的に課題解決できる深い教養と広い工学的知識を身につけた技術者となる。	☐ 都市地域解析論 ☐ インターンシップ ☐ 電子機械工学特別実験 ☐ 特別研究Ⅰ	☐ 電子機械工学特別実験 ☐ 特別研究Ⅱ
④ コミュニケーション能力 科学的な分析に基づく論理的な記述力、明解な口頭発表能力、十分な討議能力及び国際的に通用するコミュニケーション能力の修得	機械工学の諸分野における課題に対して得られた成果を、日本語による論理的な記述、口頭発表と討議、英語文献読解及び基本的な英会話ができる能力を有した技術者となる。	☐ 総合英語Ⅰ ☐ 技術英語 ☐ 日本の言葉と文化 ☐ 電気英語コミュニケーションⅠ ☐ 電子機械工学特別実験 ☐ 特別研究Ⅰ	☐ 総合英語Ⅱ ☐ 上級英語表現 ☐ 電気英語コミュニケーションⅡ ☐ 電子機械工学特別実験 ☐ 特別研究Ⅱ
⑤ 技術者倫理 世界の文化・歴史の中で、技術が社会に与える影響を考え、自らの責任を自覚し誇りを持つことのできる技術者の育成	技術が社会に及ぼす影響を考え、社会における役割と責任を理解した技術者となる。	☐ 技術者倫理 ☐ 地域と産業 ☐ 歴史学 ☐ インターンシップ	☐ 健康科学特論 ☐ 工業デザイン論 ☐ 技術史

学校教育目標・学科教育目標・科目関連表(電子機械工学専攻・専攻区分 電気電子工学)

(令和3年度以降入学者)

学校教育目標	電子機械工学専攻(専攻区分: 電気電子工学)の学習・教育目標	専攻科課程(専攻科) 科目名	
		第1学年	第2学年
① ものづくり能力 社会の変化と要請を的確に捉え、ものづくりを多面的に認識し、実現可能なシステムを構築できる技術者の養成	システムの安定性を考慮した制御法、及び電子デバイスの利用・計測技術及びスキルと安全意識を身につけた技術者となる。	☐ 都市地域解析論 ☐ インターンシップ ☐ 機能性材料学 ☐ 計測制御工学 ☐ コンピュータ工学 ☐ 特別研究Ⅰ	☐ 情報システム工学 ☐ 工業デザイン論 ☐ 技術史 ☐ 生産工学 ☐ 材料加工プロセス ☐ 材料強度学 ☐ 機械振動学 ☐ 燃焼工学 ☐ 流れ学 ☐ 機械設計工学 ☐ ロボット工学 ☐ 知識工学 ☐ 通信システム ☐ 応用電子デバイス ☐ 特別研究Ⅱ
② 基礎学力 実験・実習で培われる豊かな体験と基礎理論の深い理解との融合から生まれるエンジニアリング基盤の確立	本科で身につけた自然科学分野に対する理解力をさらに向上した上で、電気・電子回路設計等の実践的知識を身につけた技術者となる。	☐ 応用解析学Ⅰ ☐ 線形代数学 ☐ 生物化学 ☐ 原子物理学 ☐ 解析力学 ☐ 都市地域解析論 ☐ 電磁気学 ☐ 電子回路論 ☐ 工学数理演習 ☐ 電子機械工学特別実験	☐ 応用解析学Ⅱ ☐ 統計熱力学 ☐ 初等代数 ☐ 生体情報論 ☐ 信頼性工学 ☐ パターン情報処理
③ 問題解決能力 問題意識と考える力を持ち、自ら学習することによる創造力と実践力を備えた技術者の養成	実験、研究の背景を自ら調査・整理し、技術的な問題点を明確にさせた上で目的と方法を設定し、計画的、継続的に研究できる基礎的な研究能力を持つ技術者となる。	☐ 都市地域解析論 ☐ インターンシップ ☐ 電子機械工学特別実験 ☐ 特別研究Ⅰ	☐ 特別研究Ⅱ
④ コミュニケーション能力 科学的な分析に基づく論理的な記述力、明解な口頭発表能力、十分な討議能力及び国際的に通用するコミュニケーション能力の修得	整った章立てに従い、わかりやすい日本語で報告書を作成でき、聴衆に合わせたわかりやすい日本語で口頭発表、質疑応答することができ、TOEIC450点相当以上の英語運用能力を持った技術者となる。	☐ 総合英語Ⅰ ☐ 技術英語 ☐ 日本の言葉と文化 ☐ 電気英語コミュニケーションⅠ ☐ 電子機械工学特別実験 ☐ 特別研究Ⅰ	☐ 総合英語Ⅱ ☐ 上級英語表現 ☐ 電気英語コミュニケーションⅡ ☐ 特別研究Ⅱ
⑤ 技術者倫理 世界の文化・歴史の中で、技術が社会に与える影響を考え、自らの責任を自覚し誇りを持つことのできる技術者の育成	社会における技術者の役割と責任を理解した技術者となる。	☐ 技術者倫理 ☐ 地域と産業 ☐ 歴史学 ☐ インターンシップ	☐ 健康科学特論 ☐ 工業デザイン論 ☐ 技術史

学校教育目標・学科教育目標・科目関連表(電子機械工学専攻・専攻区分 電気電子工学)

(平成30年度～令和2年度入学者)

学校教育目標	電子機械工学専攻(専攻区分: 電気電子工学)の学習・教育目標	専攻科課程(専攻科) 科目名	
		第1学年	第2学年
① ものづくり能力 社会の変化と要請を的確に捉え、ものづくりを多面的に認識し、実現可能なシステムを構築できる技術者の養成	システムの安定性を考慮した制御法、及び電子デバイスの利用・計測技術及びスキルと安全意識を身につけた技術者となる。	☐ 都市地域解析論 ☐ インターンシップ ☐ 機能性材料学 ☐ 計測制御工学 ☐ 応用電子デバイス ☐ 特別研究Ⅰ	☐ 情報システム工学 ☐ 工業デザイン論 ☐ 技術史 ☐ 生産工学 ☐ 材料加工プロセス ☐ 材料強度学 ☐ 機械振動学 ☐ 燃焼工学 ☐ 流れ学 ☐ パワーエレクトロニクス論 ☐ 機械設計工学 ☐ ロボット工学 ☐ 知識工学 ☐ 通信システム ☐ 特別研究Ⅱ
② 基礎学力 実験・実習で培われる豊かな体験と基礎理論の深い理解との融合から生まれるエンジニアリング基盤の確立	本科で身につけた自然科学分野に対する理解力をさらに向上した上で、電気・電子回路設計等の実践的知識を身につけた技術者となる。	☐ 応用解析学Ⅰ ☐ 線形代数学 ☐ 生物化学 ☐ 原子物理学 ☐ 解析力学 ☐ 都市地域解析論 ☐ 電磁気学 ☐ 電子回路論 ☐ 工学数理演習 ☐ 電子機械工学特別実験	☐ 応用解析学Ⅱ ☐ 統計熱力学 ☐ 初等代数 ☐ 生体情報論 ☐ 信頼性工学 ☐ パターン情報処理 ☐ 電子機械工学特別実験
③ 問題解決能力 問題意識と考える力を持ち、自ら学習することによる創造力と実践力を備えた技術者の養成	実験、研究の背景を自ら調査・整理し、技術的な問題点を明確にさせた上で目的と方法を設定し、計画的、継続的に研究できる基礎的な研究能力を持つ技術者となる。	☐ 都市地域解析論 ☐ インターンシップ ☐ 電子機械工学特別実験 ☐ 特別研究Ⅰ	☐ 電子機械工学特別実験 ☐ 特別研究Ⅱ
④ コミュニケーション能力 科学的な分析に基づく論理的な記述力、明解な口頭発表能力、十分な討議能力及び国際的に通用するコミュニケーション能力の修得	整った章立てに従い、わかりやすい日本語で報告書を作成でき、聴衆に合わせたわかりやすい日本語で口頭発表、質疑応答することができ、TOEIC450点相当以上の英語運用能力を持った技術者となる。	☐ 総合英語Ⅰ ☐ 技術英語 ☐ 日本の言葉と文化 ☐ 電気英語コミュニケーションⅠ ☐ 電子機械工学特別実験 ☐ 特別研究Ⅰ	☐ 総合英語Ⅱ ☐ 上級英語表現 ☐ 電気英語コミュニケーションⅡ ☐ 電子機械工学特別実験 ☐ 特別研究Ⅱ
⑤ 技術者倫理 世界の文化・歴史の中で、技術が社会に与える影響を考え、自らの責任を自覚し誇りを持つことのできる技術者の育成	社会における技術者の役割と責任を理解した技術者となる。	☐ 技術者倫理 ☐ 地域と産業 ☐ 歴史学 ☐ インターンシップ	☐ 健康科学特論 ☐ 工業デザイン論 ☐ 技術史

学校教育目標・学科教育目標・科目関連表(建設工学専攻・専攻区分 土木工学)

(平成29年度以降入学者)

学校教育目標	建設工学専攻(専攻区分: 土木工学)の教育目標	専攻科課程(専攻科) 科目名	
		第1学年	第2学年
① <u>ものづくり能力</u> 社会の変化と要請を的確に捉え、ものづくりを多面的に認識し、実現可能なシステムを構築できる技術者の養成	社会の変化と要請を的確に捉え、人の生活を支える社会基盤の役割を熟知した上で、社会システムの技術的な検討や評価を行い、多角的視野からシステムや構造物の設計能力をもった実践的な技術者となる。	☐ 都市地域解析論 ☐ インターンシップ	☐ 環境都市CAD演習 ☐ 建築学CAD演習 ☐ 建築学設計演習 ☐ 特別研究Ⅰ
② <u>基礎学力</u> 実験・実習で培われる豊かな体験と基礎理論の深い理解との融合から生まれるエンジニアリング基盤の確立	数学・自然科学・情報技術の基礎や工学の基礎理論に裏打ちされた専門知識を高度化し、実験実習を通して実践的技術者に欠かせない計測技術やデータ解析法を習得した技術者となる。	☐ 応用解析学Ⅰ ☐ 線形代数学 ☐ 生物化学 ☐ 原子物理学 ☐ 解析力学 ☐ 都市地域解析論	☐ 応用解析学Ⅱ ☐ 統計熱力学 ☐ 初等代数 ☐ 生体情報論 ☐ 信頼性工学 ☐ パターン情報処理 ☐ 構造工学 ☐ 計算力学 ☐ 構造設計論 ☐ 建築材料論 ☐ 都市空間論 ☐ 建築学計測実験 ☐ 住居論 ☐ 建築造形論 ☐ 都市計画論
③ <u>問題解決能力</u> 問題意識と考える力を持ち、自ら学習することによる創造力と実践力を備えた技術者の養成	防災、環境、社会資本整備等について自ら学習することで、問題を提起する能力や問題の解決策を豊かな発想で創造し、解決に向けて計画、実践できる能力を有した技術者となる。	☐ 都市地域解析論 ☐ インターンシップ	☐ 建築学CAD演習 ☐ 建築学設計演習 ☐ 特別研究Ⅰ
④ <u>コミュニケーション能力</u> 科学的な分析に基づく論理的な記述力、明解な口頭発表能力、十分な討議能力及び国際的に通用するコミュニケーション能力の修得	日本語による論理的な記述力、明解な口頭発表能力、十分な討議能力を養成し、国際理解を深め、英語での記述、口頭発表及び討議のための基礎知識を有した技術者となる。	☐ 総合英語Ⅰ ☐ 技術英語 ☐ 日本の言葉と文化	☐ 建築学CAD演習 ☐ 建築学設計演習 ☐ 国際技術表現 ☐ 特別研究Ⅰ
⑤ <u>技術者倫理</u> 世界の文化・歴史の中で、技術が社会に与える影響を考え、自らの責任を自覚し誇りを持つことのできる技術者の育成	日本や世界の文化や歴史をよく認識し、技術が社会に与える影響を理解し、自らにも社会にも誠実であり、誇りと責任感をもった技術者となる。	☐ 技術者倫理 ☐ 地域と産業 ☐ 歴史学	☐ インターンシップ ☐ 健康科学特論 ☐ 工業デザイン論 ☐ 技術史 ☐ 建築造形論

学校教育目標・学科教育目標・科目関連表(建設工学専攻・専攻区分 建築学)

(平成29年度以降入学者)

学校教育目標	建設工学専攻(専攻区分: 建築学)の教育目標	専攻科課程(専攻科) 科目名	
		第1学年	第2学年
① ものづくり能力 社会の変化と要請を的確に捉え、ものづくりを多面的に認識し、実現可能なシステムを構築できる技術者の養成	社会の変化・要請を捉え、問題を分析・抽出し、条件の下で問題を解決・提案する能力を有した技術者となる。	☐ 都市地域解析論 ☐ 環境都市CAD演習 ☐ インターンシップ ☐ 建築学CAD演習 ☐ 建築学設計演習 ☐ 特別研究 I	☐ 情報システム工学 ☐ 工業デザイン論 ☐ 技術史 ☐ 都市計画論 ☐ 特別研究 II
② 基礎学力 実験・実習で培われる豊かな体験と基礎理論の深い理解との融合から生まれるエンジニアリング基盤の確立	建築分野の実社会に必要で役立つ知識や技術を応用して問題を解決する能力を有した技術者となる。	☐ 応用解析学 I ☐ 水工学 ☐ 線形代数学 ☐ 水資源学 ☐ 生物化学 ☐ 高機能コンクリート ☐ 原子物理学 ☐ 建築環境工学論 ☐ 解析力学 ☐ ファシリティマネジメント ☐ 都市地域解析論 ☐ 環境都市CAD演習 ☐ 応用地盤工学 ☐ 水質工学 ☐ 建築学CAD演習 ☐ 建築学設計演習 ☐ 建設工学創造実験 ☐ 建築計画論	☐ 応用解析学 II ☐ 統計熱力学 ☐ 初等代数 ☐ 生体情報論 ☐ 信頼性工学 ☐ パターン情報処理 ☐ 構造工学 ☐ 計算力学 ☐ 構造設計論 ☐ 建築材料論 ☐ 都市空間論 ☐ 建築学計測実験 ☐ 住居論 ☐ 建築造形論
③ 問題解決能力 問題意識と考える力を持ち、自ら学習することによる創造力と実践力を備えた技術者の養成	報告書作成能力、図面判読能力及び、設計に関する説明力とプレゼンテーション力、討議能力を有した技術者となる。	☐ 都市地域解析論 ☐ 建築学CAD演習 ☐ インターンシップ ☐ 建築学設計演習 ☐ 特別研究 I	☐ 環境都市設計演習 ☐ 建築学計測実験 ☐ 特別研究 II
④ コミュニケーション能力 科学的な分析に基づく論理的な記述力、明解な口頭発表能力、十分な討議能力及び国際的に通用するコミュニケーション能力の修得	日本語による論理的な記述、口頭発表、討議能力、英語文献読解力と基本的英会話能力を有した技術者となる。	☐ 総合英語 I ☐ 建築学CAD演習 ☐ 技術英語 ☐ 建築学設計演習 ☐ 日本の言葉と文化 ☐ 国際技術表現 ☐ 特別研究 I	☐ 総合英語 II ☐ 上級英語表現 ☐ 特別研究 II
⑤ 技術者倫理 世界の文化・歴史の中で、技術が社会に与える影響を考え、自らの責任を自覚し誇りを持つことのできる技術者の育成	建築技術が社会に与える影響を理解し、技術者としての誇りと責任感を有した技術者となる。	☐ 技術者倫理 ☐ 地域と産業 ☐ 歴史学 ☐ インターンシップ	☐ 健康科学特論 ☐ 工業デザイン論 ☐ 技術史 ☐ 建築造形論

学校教育目標・学科教育目標・科目関連表(情報科学専攻・専攻区分 情報工学)

(令和3年度以降入学者)

学校教育目標	情報科学専攻の 教育目標	専攻科課程(専攻科) 科目名	
		第1学年	第2学年
① ものづくり能力 社会の変化と要請を的確に捉え、ものづくりを多面的に認識し、実現可能なシステムを構築できる技術者の養成	ハードウェア・ソフトウェアの知識及び技能を総合的に活用し、社会に役立つコンピュータシステムを構築できる実践的技術者となる。	☐ 都市地域解析論 ☐ インターンシップ ☐ 情報科学実験 ☐ デジタル信号処理 ☐ ソフトウェア工学 ☐ 応用情報システム ☐ 知識情報工学 ☐ 組込みシステム特論 ☐ 特別研究 I	☐ 情報システム工学 ☐ 工業デザイン論 ☐ 技術史 ☐ コンパイラ ☐ ネットワークセキュリティ ☐ 電子工学 ☐ 特別研究 II
② 基礎学力 実験・実習で培われる豊かな体験と基礎理論の深い理解との融合から生まれるエンジニアリング基盤の確立	問題の本質を数理的にとらえ、コンピュータシステムを活用した問題解決方法を多角的視野から検討できる技術者となる。	☐ 応用解析学 I ☐ 線形代数学 ☐ 生物化学 ☐ 原子物理学 ☐ 解析力学 ☐ 都市地域解析論 ☐ 情報数学特論 I	☐ 応用解析学 II ☐ 統計熱力学 ☐ 生体情報論 ☐ 初等代数 ☐ 信頼性工学 ☐ パターン情報処理 ☐ 情報数学特論 II
③ 問題解決能力 問題意識と考える力を持ち、自ら学習することによる創造力と実践力を備えた技術者の養成	社会の多様なニーズに応えるコンピュータシステムを設計・開発するためのデザイン能力を有し、コンピュータを用いた適切な解析・処理を提案できる創造的技術者となる。	☐ 都市地域解析論 ☐ インターンシップ ☐ 特別研究 I	☐ 特別研究 II
④ コミュニケーション能力 科学的な分析に基づく論理的な記述力、明解な口頭発表能力、十分な討議能力及び国際的に通用するコミュニケーション能力の修得	日本語を使って、説得力のある口頭発表ができ、筋道を立てて報告書を書くことができるとともに、英語によるコミュニケーション基礎能力を有する技術者となる。	☐ 総合英語 I ☐ 技術英語 ☐ 日本の言葉と文化 ☐ 特別研究 I	☐ 総合英語 II ☐ 上級英語表現 ☐ 特別研究 II
⑤ 技術者倫理 世界の文化・歴史の中で、技術が社会に与える影響を考え、自らの責任を自覚し誇りを持つことのできる技術者の育成	倫理観をもち、コンピュータやネットワークが社会に与える影響を正しく認識できる技術者となる。	☐ 技術者倫理 ☐ 地域と産業 ☐ 歴史学 ☐ インターンシップ ☐ コンピュータシステム	☐ 健康科学特論 ☐ 工業デザイン論 ☐ 技術史

学校教育目標・学科教育目標・科目関連表(情報科学専攻・専攻区分 情報工学)

(平成29年度～令和2年度入学者)

学校教育目標	情報科学専攻の 教育目標	専攻科課程(専攻科) 科目名	
		第1学年	第2学年
① ものづくり能力 社会の変化と要請を的確に捉え、ものづくりを多面的に認識し、実現可能なシステムを構築できる技術者の養成	ハードウェア・ソフトウェアの知識及び技能を総合的に活用し、社会に役立つコンピュータシステムを構築できる実践的技術者となる。	☐ 都市地域解析論 ☐ インターンシップ ☐ 情報科学実験 ☐ デジタル信号処理 ☐ ソフトウェア工学 ☐ 論理回路設計 ☐ 応用情報システム ☐ 知識情報工学 ☐ コンピュータアーキテクチャ応用 ☐ 特別研究 I	☐ 情報システム工学 ☐ 工業デザイン論 ☐ 技術史 ☐ コンパイラ ☐ ネットワークセキュリティ ☐ 電子工学 ☐ 情報科学実験 ☐ 特別研究 II
② 基礎学力 実験・実習で培われる豊かな体験と基礎理論の深い理解との融合から生まれるエンジニアリング基盤の確立	問題の本質を数理的にとらえ、コンピュータシステムを活用した問題解決方法を多角的視野から検討できる技術者となる。	☐ 応用解析学 I ☐ 線形代数学 ☐ 生物化学 ☐ 原子物理学 ☐ 解析力学 ☐ 都市地域解析論 ☐ 離散数学	☐ 応用解析学 II ☐ 統計熱力学 ☐ 生体情報論 ☐ 初等代数 ☐ 信頼性工学 ☐ パターン情報処理 ☐ 数理論理学 ☐ 形式言語理論
③ 問題解決能力 問題意識と考える力を持ち、自ら学習することによる創造力と実践力を備えた技術者の養成	社会の多様なニーズに応えるコンピュータシステムを設計・開発するためのデザイン能力を有し、コンピュータを用いた適切な解析・処理を提案できる創造的技術者となる。	☐ 都市地域解析論 ☐ インターンシップ ☐ 特別研究 I	☐ 特別研究 II
④ コミュニケーション能力 科学的な分析に基づく論理的な記述力、明解な口頭発表能力、十分な討議能力及び国際的に通用するコミュニケーション能力の修得	日本語を使って、説得力のある口頭発表ができ、筋道を立てて報告書を書くことができるとともに、英語によるコミュニケーション基礎能力を有する技術者となる。	☐ 総合英語 I ☐ 技術英語 ☐ 日本の言葉と文化 ☐ 特別研究 I	☐ 総合英語 II ☐ 上級英語表現 ☐ 特別研究 II
⑤ 技術者倫理 世界の文化・歴史の中で、技術が社会に与える影響を考え、自らの責任を自覚し誇りを持つことのできる技術者の育成	倫理観をもち、コンピュータやネットワークが社会に与える影響を正しく認識できる技術者となる。	☐ 技術者倫理 ☐ 地域と産業 ☐ 歴史学 ☐ インターンシップ ☐ コンピュータシステム	☐ 健康科学特論 ☐ 工業デザイン論 ☐ 技術史